

講究会5月の次第

1. 5月10日

ヒルベルト空間中の曲線について

竹之内 脩 (第1部)

Brownian Motion $\xi(t)$ をヒルベルト空間中の要素と考える。ヒルベルト空間中の Operator K を運動と定義する。かうすることによつて Brownian Motion $\xi(t)$ を K と関係づけて論ずることが出来る。此の主旨をのべたもの。

2. 5月17日

Random Equation に就て

田口 玄一 (第3部)

$$\sum_{i=0}^{n-1} \alpha_i x^i = 0$$

α_i は Random Variable

此の時実根の数 N_{n-1} の平均 $E(N_{n-1})$ の評価を行ふことが考へられる。 α_i が $-1, +1$ を夫々確率 $\frac{1}{2}$ にとる場合、又、平均0、分散1の正規分布をなす場合は過去において論ぜられてゐる。此の種の問題を拡張、一般化、抽象化して論じたいもの。

3. 5月24日

数理統計学の或る問題について

鍋谷 清治 (第2部)

x_1, x_2, \dots, x_n は、平均0 分散1の正規分布をなす確率変数

$$\mathcal{X} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$$

A : Positive definite の行列

この時 $\mathcal{X}' A \mathcal{X}$ の独立の時

$\frac{\psi' A \psi}{\psi' B \psi}$ の分布を計算する。

この時 *mixture* と言ふもの考へて計算してゆく話

4. 5 月 3 1 日

数量化の問題について

西平重喜(第3部)

従来、態度測定方法によつて、よくつかはれてゐる *Thurstone* (L.L) の行つた *Attitude Measurement* の方法を、統計数理的立場に立つて別な観点から批判を加へ、此の改良すべき点を指摘し、此の種の問題に対する統計的分析方法の一例を與へた。